



第31回定期委員会を開催！！

二〇一九年十一月九日に東京地方本部において定期委員会を開催し、一年間の方針が決定される

役員・来賓からのあいさつ

国労東日本本部大沼委員長からの挨拶として、台風関係における問題では、被災を受けている実態に対してカンパの取組を要請しているので協力をお願いしたい。また、台風対応にて自家用車が水没となった社員に対して会社は保証を考えている。年末手当の交渉をおこなっている最中である。組織拡大について一昨年度は二七名、昨年度は一八名、今年度は二名という状況となっている、工務の皆さんにも奮闘をお願いしたい。会社施策に対する多くの申し入れをしてきている。政治課題をはじめ取組むことは山ほどあるのでご協力をお願いしたい。丸谷工務議長挨拶として、メンテナンス体制移行、会社側は施策を進めてきたが多くの問題点を抱えたままとなっている。

工務として本社交渉に向けた取組をしている。新幹線問題において支社は関わりを持たないようになってきている。統括本部は、冬期間問題については、支社の冬期間問題を見てから統括本部は検討すると回答をしている状況となっている。来賓の全国工務連絡会から尾崎副議長の挨拶として、東日本工務の皆さんにはお世話になっております。台風における被害は、以前は東海から西にかけて多かったが今年は東日本にておきているという状況となっている。工務関係においては事故が減少することはなく全国的に問題が多い実態となっている。今年度は代表者会議の開催でしたが、来年度は総会が開催できる方向で取組んでいきたいと思っています。定期委員会にかけつけていただきました、東日本本部大沼委員長、全国工務連絡会尾崎副議長ありがとうございます。

経過・方針・財政提起

経過として、メンテ最適化より一年が経過するなかで、メンテ最適化の検証をおこない要求集約をし、本社交渉に向けた取組をしてきました。東日本本部は「申五号」にて改善を求める要求を本社へ提出をしました。また、今年も盛岡地協の協力にて第二六回交流会を開催しました。交流会では工務職場における多くの問題点が出され、内容は工務協ニュースにおいて報告をしています。方針では、各級上部機関における政治課題をはじめ、取組に積極的に参加をしていきます。労働条件改善では安全・安定輸送確立のために安全・仕事総点検運動を基軸に職場から調査・点検活動の強化を図ります。組織の強化拡大については、昨年の定期委員会以降、拡大が無いことから、積極的に取組むとともに、第二七回の交流会開催をはじめ三六代表者選挙を通じて労働組合の必要性を訴えて組織拡大に向け強化を図ります。以上、提起がされました。

委員会発言

メンテ最適化以降の問題として、軌道材料モニタリングデータが送信されてくるまでに四週間かかり、継目板ボルトの一本脱落で現場に行くと、数本脱落している。また、ボンドも脱落している。三カ月間監視に行かない結末である。エリアセンター化で少ない要員で全ての業務を行っている。月平均の超勤が三三、五時間に達している。申を提出したが交渉日程が決まっていない。国労の組合員が助役発令となっている。(新潟)モニタリングの結果で現場へ行くと、ボルトが一本、二本と脱落している状況。要員不足で助勢をしている実態。台風被害では三陸鉄道が大きな影響を受けている。組織拡大も頑張っているが、なかなか芽が出ないのが現実。(盛岡)MTT施工はないとしていたが、線路科長会議で施工をするという話が出ている。職場で曲げる・折る・脱線という、あつてはならないことが起きてしまった。

このことに対して本社から職場訪問にきた人物が「東日本一、悪い線路の職場だ」と言っていた。このことは若手社員を含めてモチベーションを下げるものだ。新在区間で仕事をしているが予算もないなかで維持管理に限界がきている。メンテナンス最適化での展望はどうなるのか、除雪における問題など山積みである。(仙台)認定線区における材料検査の状況をみて団体交渉をしてきた。冬期団体交渉はないと言われている。「とらん丸」の問題で、会社は軌陸車ではないと言っている。軌道上を走行し、分岐器を移動するにも関わらず、保車扱いはしない。新幹線統括本部問題として交渉の窓口はどうしていくのか。台風で水没した職場は、未だ電気も通らずの状態。仕事で幹線高架橋にいた社員は逃れられたが、水没してしまった職場にいた社員は、自衛隊に救助された。被災をした仲間が(裏面へ続く)

いる。(長野) 事務センター化・部外工事・近接工事と業務における問題や、組織拡大など取り組みをしているところである。(高崎) 台風の被害だが、人命にかかわる被害はなかったが、水郡線が大きな被害を受けた。要員が不足しているなかで、若手社員は研修・出張が多い。エルダー制度・短日数・線路閉鎖のブロック作時帯・MTIエリア変更と問題は多い。安心して働ける環境作りが重要である。国労で三六代表となったが、なかなか職場に変化はない。組織拡大も未加入になったことで加入に向けた話ができるようになってきた。常磐線全線開通の説明(提案)があったが、用地環境問題として、二、七シーベルトとまだまだ線量が高い状況にある。(水戸) 一〇月二二日に三三、六ミリの高低変位がE a s t iにて検出された。本来は二週間以内の軌道整備だが、パートナー判断で二週間を超えた。分岐器の解体検査は、モーターのロック調整を保技セが実施している。今月からRFDのレール探傷検査で

毎回、C・Cランク傷が出ているが、直轄で継目板取付けをしている。また、タイププレート交換を二二枚程度実施した。毎年二年目の社員が怪我をしている。支社内では社員による交通事故が多発している。二年目社員へ、社友会へは加入しなくてもよいと言われている。若手社員は職場で不平・不満を言う場所がないと言っている。(秋田) 職場には、エルダーとして一名も国労組合員を残さないという実態。加入した若い社員の異動など、まだまだ国労差別をしてきている。モニタリングには多くの問題点がある。(千葉) 施設事務の合理化がおこなわれた。J R・P社ともに適正な要員とはなっていない。仕上がりトラマスが列車と衝突する事故が起きていない。一向に事故は減少していない。(東京) 最後に運転照合のために早出超勤の指定がされる問題が出され、別途確認することになりましたので、確認出来次第お知らせをいたします。以上、全体で二名の発言を地協毎に掲載しました。

丸谷議長集約
 工務職場における超勤問題をはじめ、多くの問題点がだされました。メンテナンス最適化において想定されていた問題が明らかとなってきた。本社交渉では、問題の改善を目指し、交渉に臨んで行きたい。会社がベテランに求めているのは技術継承・若手育成だが、私たちは会社と常に対峙しながら仕事をしてきた。会社に対して交渉に基づいた内容を守らせる取り組みが重要である。施設事務の合理化等、会社はスピード感をもって施策を進めてきている。この事に対してしっかりと取り組みの強化をしていかなければならない。
 《編集後記》
 国鉄世代が間もなく退職を迎える。労働組合が弱体化する中で、技術継承と働く社員の労働環境や賃金問題をはじめ、安全で安定した労働環境が継続できるのか、改めて労働組合の重要性を実感している昨今である。

「労働組合に加入しよう」
 この一年間で会社の施策は大きく転換し、様々な施策が次々とすすめられ、そのためには労働組合は必要ないと考えています。労働組合がなくなってしまうたら、賃上げやボーナス・働く環境や会社提案の施策に対する交渉がなくなり、すべてが会社提示のまま、納得ができなくても解決策はなく、泣き寝入りをするしかありません。社員一人一人では弱くて何もできません。安心して安全に働き続けることができるために、社員が一丸となって改善を目指し、働く社員の利益を守るために結集するのが労働組合です。「団体交渉権」は労働組合にあります。働く社員の声が重要です。だからこそ「団体交渉権」のある労働組合に加入をしましょう。

国鉄労働組合は皆さんの加入をお待ちしております。



第31回国労東日本工務協議会定期委員会に結集された工務協の皆さんお疲れ様でした。第27回交流会は高崎地協の準備にて開催をします。まだ、会場は決定していませんが、東日本工務に結集をしている仲間と交流や、夜には楽しい宴会もあります。各地から地酒が持ち寄られ、酒好きにはたまならない面もあります。組合未加入者も大歓迎です。毎年6月の上旬に開催です。事務連絡にてお知らせをいたします。